

第12回 ^{にし}西B・C遺跡 ^{みずほ}(水保)

西B・C遺跡は水保地区土船にあり、古くから「西縄文住居跡」と呼ばれていました。福島盆地の西部に位置し、フルーツラインと鍛冶屋川が交差する地点の段丘上にある縄文時代の遺跡です。

平成9年に道路の改修工事に伴い発掘調査が行われ、直径4～5mほどの円形の^{たてあなしゅうきょ}竪穴住居が6棟見つか、床面には^{ふくしきろ}複式炉が作られていました。他にも木の実などを蓄えていたと思われる深い穴(貯蔵穴)や、幼児のお墓と考えられる^{うめがめ}埋甕も見つか、この場所が縄文時代中期の終わりごろ(約4,000年前)のむらの跡であることがわかりました。

現在は畑になっていて、わずかに「西縄文住居跡」と記された^{ひょうちゅう}標柱が立っているだけですが、四季折々姿を変える吾妻の山を望みながら、はるか先人の暮らしに想いを馳せることができる遺跡と言えるのではないのでしょうか。



畑の隅に立つ標柱にはうっすらと「西縄文住居跡」の文字が残ります。



直径1m、深さ1mの貯蔵穴が、重なり合うように見つかっています。

開園時間 9:00～17:00 (駐車場は8:30～17:30)

定休日

◆体験学習施設・露出展示棟▶火曜日/年末年始(12月29日～1月3日)

※火曜日が祝日の場合は、翌日以降の祝日にあたらない日

※福島市公立学校の春・夏・冬季休業中は毎日開館

◆休憩棟・炊事棟▶年末年始(12月29日～1月3日)

◆公園区域・駐車場・休憩棟内トイレ▶定休日なし

住所 〒960-8201 福島県福島市岡島字宮田78

電話 (024) 573-0015 FAX (024) 573-0016

体験学習施設 展示室観覧料

個人 一般200円/高校生以下100円

団体 一般140円/高校生以下 70円

※未就学児無料 ※団体は20名から

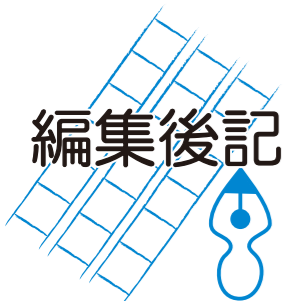


ほころびはじめたマンサク

福島市内には、縄文時代中期・後期・晩期の約2000年間にわたりこの地岡島に営まれた宮畑遺跡や、飯野町和台遺跡など南東北を代表する縄文時代の人々の生活を伝える数々の遺跡があります。じょーもぴあ宮畑は開園以来12月末までに4万人を超える来館者を迎えています。じょーもぴあ・遺跡の案内人が常駐して宮畑の地に暮らし続けた縄文人の生活の様子を説明しています。

体験学習施設じょいもんや芝生広場、遊具の広場など、四季を通じて体験と学習ができるじょーもぴあ宮畑を、縄文ロマンの憩いの場としてご利用ください。

編集後記



じょーもぴあ宮畑 ^{だより} 第17号 平成28年3月 ^{みやはた}

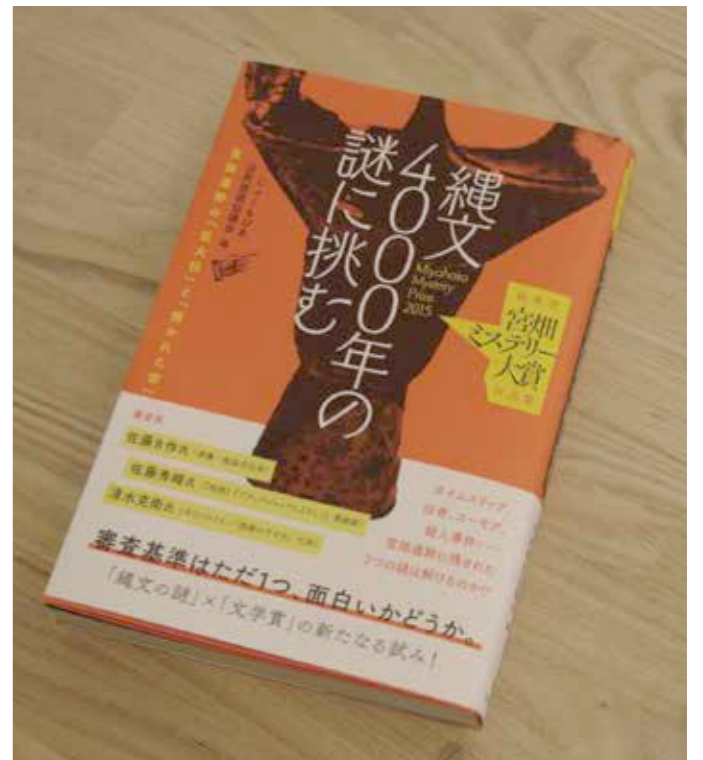
★「じょーもぴあ」とは、「縄文時代を身近に感じられるユートピアのような場所」の意味です。

発行：じょーもぴあ・遺跡の案内人 編集：じょーもぴあ宮畑だより編集班

宮畑ミステリー大賞の受賞作がついに書籍化されました！ 『縄文4000年の謎に挑む』

平成26年4月から約1年間、「宮畑ミステリー大賞」として、宮畑遺跡の2つの謎をテーマにした小説、漫画を募集し、北は北海道から南は宮崎県まで、全国から149点(小説138点、漫画11点)の応募がありました。佐藤B作氏、佐藤秀峰氏、清水克衛氏の3名の審査員が「おもしろいかどうか」を審査基準に、最優秀賞、優秀賞、特別賞を決定しました。じょーもぴあ宮畑のオープニングイベントでは、佐藤B作氏、清水克衛氏にご出席いただき、盛大に受賞者の表彰式を行いました。

平成28年1月21日には受賞作の7作品を収録した書籍『縄文4000年の謎に挑む』(じょーもぴあ活用推進協議会編、現代書林



書籍化された宮畑ミステリー大賞作品集

発行、1,058円税込)が刊行されました。SFあり、ユーモア小説あり、推理小説あり、極めてバラエティーに富んだ内容となっておりますので、ぜひお近くの書店等でご購入ください。

また、3月中にはじょーもぴあ宮畑体験学習施設じょいもんで、受賞作を含めた応募作品約80点を常時閲覧できるように準備する予定です。じょーもぴあ宮畑にお越しの際は、逸品揃いの応募作品をぜひご覧ください。



宮畑ミステリー大賞審査会の様子 (左から清水克衛氏、佐藤B作氏、佐藤秀峰氏)

じょーもぴあ宮畑のこの1年

今年度のじょーもぴあ宮畑は開園準備から始まりました。その中で、東部地区を中心に地域の方々と一緒にじょーもぴあ宮畑の除草作業をする「じょーもぴあ宮畑をきれいにする日」は、今年も沢山の市民にご参加いただきました。また、夏休みの小学生を対象に公園での自然観察会も実施しました。



じょーもぴあ宮畑をきれいにする日



自然観察会



小学校の活用授業



小学校の活用授業

物づくりを中心に、さまざまな体験を実施しましたが、中でも広い公園という立地を活かした縄文土器の野焼きや凧揚げは、じょーもぴあ宮畑ならではの企画です。翌日も凧揚げを楽しむ親子の姿が見られたのはうれしい限りです。

8月8日の全面開園以来、じょーもぴあ宮畑は4万人を超えるお客様にご来場いただきました。約5700人の来場者があった開園イベントやじょーもぴあ宮畑秋まつりを始め、市内の沢山の小学校や市内外のさまざまな団体にもおいでいただいています。



親子で凧づくり



縄文土器づくり(野焼き)

9月 土笛づくり	12月 消しゴムハンコでスタンプづくり
10月 オリジナル縄文しおりづくり 縄文土器づくり	縄文風ランプシェードづくり
11月 アンギン編みでタペストリーづくり 縄文リースづくり	1月 親子で凧づくり 親子で鬼のお面づくり
	2月 親子で縄文風ひな人形づくり



アンギン編みでタペストリーづくり



石器づくり名人がやってくる

また、専門家を講師に招いた「海辺の縄文遺跡を掘る」「石器づくり名人がやってくる」などの講演は専門的な内容がとても分かりやすかったと大変好評を得ました。

今後も皆様に喜ばれ親しまれる企画を準備していますので、お楽しみに。

宮畑遺跡は福島の宝 ～来園者の声より～

子供たちからは◆竪穴住居に入れてうれしかった。中が広くてびっくりした◆弓矢が体験できてうれしい◆火おこしは難しかったけど、楽しかった◆竪穴住居に住んでみたい◆縄文人たちの知恵と工夫にはびっくりした◆広い公園で思いっきり走れた などの感想が聞かれました。体を使って縄文時代を学ぶことができるじょーもぴあ宮畑ならではの声だと思います。

大人の来園者からは◆竪穴住居に入ったら、昔の囲炉裏のにおいがして懐かしかった。◆長年疑問に思っていた縄文時代の暮らしが、展示を見てよくわかった◆何十年も福島で暮らしているけれど、こんな遺跡があるとは思わなかった◆これは福島の宝だから、みんなに宣伝します などの感想をいただいています。

じょーもぴあ宮畑が福島市の魅力を再発見するきっかけになればと思います。

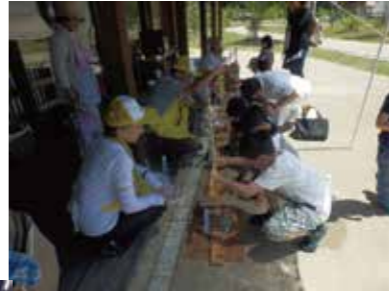
じょーもぴあ・遺跡の案内人のこの1年

じょーもぴあ・遺跡の案内人の活動は宮畑遺跡にとどまらず、広く福島市の歴史や文化を発信します。そこで、今年度は市内の縄文遺跡を探訪し、案内ガイドのスキルアップを目指しました。

開園が目前に迫った5月～7月には、現地見学会を主催し、火お



屋外研修(上岡遺跡)



現地見学会(火おこし体験)



フィールドワーク「縄文奥の細道」(和台遺跡)



ワークショップ「土偶づくり」

はじめとする福島市の縄文文化を案内しました。開園後には施設に常駐し、案内ガイドや縄文体験のサポートを行いながら、オープンカレッジやフィールドワーク、ワークショップ等の行事も主催しています。特に3回シリーズで実施したオープンカレッジは、縄文文化にとどまらず、広く原始・古代文化を取り上げ、参加者から多くの質問が出るなど活況を呈しました。

こしや弓矢などの縄文体験もあり、親子連れでにぎわいました。

「フィールドワーク縄文奥の細道」では、市民とともに福島市内の縄文遺跡を巡り、和台遺跡を



オープンカレッジ「縄文人からの伝言」



オープンカレッジ「国家の胎動 縄文時代から卑弥呼の時代へ」



フィールドワーク「東部地区の歴史と文化」

シリーズ展示案内 ②

じょーもぴあ宮畑の体験学習施設じょいもんのエントランスホールの床は、一部がガラス張りになっており、床下には発掘調査で見つかった竪穴住居(縄文時代中期)を展示しています。



エントランスホールの床下展示

この住居は復元住居の北側で見つかったもので、竪穴住居の表面の土を1mmにも満たない厚さで剥ぎ取り、樹脂で固めており、本物の竪穴住居を発掘調査で見つかった時のままの状態で見ることができます。

よく観察すると、家の中にたまっている土や床が赤くなっている部分があります。これは家が焼かれた時にできた焼け土です。また、石を並べて作られた複式炉も、忠実に再現されています。



発掘調査で見つかったままの住居をガラス越しに見ることができます

住居内から見つかった土器や、柱穴に立てられていた石棒もそのまま復元されています。

発掘調査で見つかった本物の住居を見る機会はなかなかありませんので、じょーもぴあ宮畑にお越しの際は、よく観察してみてください。